

おお大勝利

平成 29 年度山東サッカー一部報第 15 号 (10 月 17 日)

サッカー一部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

選手権 3 回戦鶴東に惨敗し今 シーズンを終える

10 月 14 日 (土) 選手権 3 回戦が行われ、山東は鶴岡東と対戦しました。部方前号で、山東が 2 年連続で県総体で鶴東の邪魔をしており、鶴東は「山東来い、潰してやる」と思っているだろうから、「初戦勝って鶴東さんと戦うことが礼儀」と書きましたが、鶴東にそんな意識はなかったかもしれません。だって、現在の山東、春のチームと (全然) 違うし、**鶴東は優勝を狙っている (狙う資格のある) 好チーム**なので、山東ごときに強い思い入れなどなかったかもしれない。優勝までのただの通過点でしかないから。しかし、山東としては、そんな実力差のある対戦ゆえに、「当たって砕けろ、失うものは何もない (3 年カンタを失うだけ)」と開き直れるというもの。

会場は庄内町八幡 SP (人工芝)。何もしていない者にとっては肌寒いですが、動き回る選手にしたらちょうど良い気温だろうし風も強くない絶好のコンディション。**清野総監督、工藤先輩、後藤報道局長**が遠方にもかかわらず、いつも通りいらっしゃる。**多数の保護者、保護者 OBOG の皆様**も、駆けつけてくださった。**河合塾 1 年のユート**も、もはやいつも通り来ている (サンペーとともに)。浪人生でこんなにも (毎試合) 応援に来てるし (来いとは決して言っていない)、部報にもちょいちょい登場しているので、心配している読者の方もいらっしゃるでしょうから、彼が合格したら特別に部報に掲載しなければなりませんね (おそらく今年は決めてくれるでしょう)。

さて、試合が始まると、山東の入り集中していてまずまず良い。山東としては得点が入らなくても失点しなければ御の字。そのうち、格上の相手が焦れてきて調子を崩す中で、少ないチャンスをもものにしたい。などと、たくらむまでもなく、前半 10 分足らずで、①DF と MF の間のルーズボールに反応する者がおらず、逆サイド (山東左サイド) に振られ、②対応した右 SB も寄せが甘く (というかピッチに足を滑らせバランスを崩しているものだから話にならない)、③周りの選手も SB へのサポートが遅く (速ければ挟み込む対応などできた)、そして④右 SB がニアサイドを切っておりシュートはファーサイドに来ると大体読めるのに甘いシュートコースへの GK の反応はスローモーションであり、簡単に決められ、山東いつも通りの早すぎる失点。①~④の中で特に①が悪い。右 SB のディフェンス能力からすれば②は仕方ないし、彼は悪くない (現段階では諦めるしかない、彼を SB で起用した監督の責任)。④も、まあ仕方ない。いろいろ考えると。しかし、**あんなに選手がいたのに、自分のマークに引きずられて (?) 誰もルーズボールに反応しないって何なのだろう**。山東の現状、すなわち**「攻守にわたり人任せ」**という現状が露骨に表れたシーンでした。「誰かが競り合っ

くれる」「誰かが反応してくれる」と他人任せ、「だって自分はこの仕事をしているのだもの」と自分に言い訳。攻撃でも、ボールを受けようと積極的に相手と相手の間（ギャップ）に入る、またはボールに近づく選手が少なすぎる（動きといたら、止まっているか、縦に走るかどうか）。顕著に現れるのがFKのシーン。みんな、クイックでボールを受けてうまいことやろうとなんか考えてもみないかのように、ボールに背を向けて相手ゴール前に上がっていくが、山東ってそんなにヘディング強かったっけ？ ロングボールから狙いのプレーって練習していたっけ？ 鶴東って特にボランチの選手が結構ヘディング強く、ハイボールの争いになるべく持ち込まない方が得策なんじゃないの？ 要は、**自分のところにボールが来て欲しくない（ミスして奪われたくないから）**という後ろ向きの、そして誰かがそういうことはやってほしいという他人任せの発想。**守備時のルーズボールへの反応って、自分の読みが当たるうれしいシーンのはずだし、攻撃時に自分のところになるべくボールが来るよう発想するなんていうのはサッカー選手（FP）として当然のこと**。それらが感じられないから、「下手だな」とかじゃなくて「何で？」と理解できない。もちろん、これは、守備時のチャレンジ&カバーの構築がしっかりできていない、そして、そう指導できていないという指導者側の問題だし、攻撃においても自信をつけさせてやれていないという指導者側の問題であり、その問題から逃げるつもりはない。でも、サッカー選手たるもの、指導が云々じゃなくて、サッカーを楽しみたいと強く思って、もっと自分を出さなきゃいけないし、指導者がそう導いてくれないからできないんだなどと発想せず¹、「やるのは我々だ」とプライドを持ってもらいたい。いや、こういう根本的なところって、教わるものではないような気がする。

いろいろ長々書きましたが、とにかく均衡破れるのが早すぎる。しかし、**選手たちは声を掛け合い、雰囲気は良かった**。試合前、確認し合ったのです。厳しい試合になる、失点しても下を向かず頑張ろう、ビハインドでも少数失点で粘ればチャンスが来る、と。しかし、選手は足りているのに（崩されたわけでもないのに）、ロングスロー、CKのこぼれ球（ルーズボール）の対応が決定的に悪く、**すべて相手に拾われ（ゴール前でも！）、簡単に失点を重ねる**。立て続けの4失点。試合としては、前半でジ・エンド。

しかし、ハーフタイム、後半は切り替えて、まずは後半は勝てるように頑張ろうと声を掛け合う。**後半は鶴東が安全運転で来たということもあったし、山東も良く粘ったということもあり、そこそこ良い勝負ができています**。「こういう試合ができるんだから、前半の立て続けの失点もったいなんだよな〜」などとボヤキが出る。ただし、決定機はつかむことができず。前の試合に前半4分で目の上を切り退場した**1年ダイキ**も、後半気迫の途中出場を果たしましたがね〜。**負ければこの試合で引退のカンタ、CBで体を張りよく声をかけ活躍してくれました。後半途中からは1列前に上がり、得点をうかがうも、逆に山東、サイドを崩され真ん中でも対応を誤りフリーでシュートを打たせてしまい追加点を与え、結局0対5の完敗。すべてが鶴東の方が上でした**。

試合後、（去年のユートと違い）**カンタは「やり切った」という晴れ晴れとした表情をしていました**。一応**カンタは先週勝利に導いたからね**。カンタ、ここまでありがとう。中学3年夏からの（！）²**山東サッカー部生活、本当にお疲れ様。あとは受験頼むぞ**。

地区一年生大会という非公式戦はありますが、公式戦としてはこれで山東の今シーズン終了。応援ありがとうございました。なかなか勝てないシーズン後半でしたが、来春成長した姿をお見せできるよう頑張ります。引き続きよろしくお願ひします。

¹ 少なくとも選手はこのような考えてはいけない。これは選手側のモラルです。それらの問題をひっくり返した状況への責任、そしてそれらを改善する責任を持つのが指導者側のモラルです。

² 中三のとき苗場に行ったんです。